

おおさか社会福祉史研究会

ニュースレター

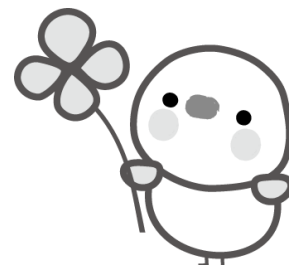
2021年4月3日発行
Vol. 9

〈目次〉

研究会報告（第54回～第62回）

2019年度会計報告

事務局からのお知らせ



研究会報告

第54回 定例研究会

「大阪府方面委員と部落事務員：特別展準備過程で出会った資料から」

報告者：大阪歴史博物館 飯田 直樹氏

【2018年5月25日(18:00～20:00)、場所：西成市民館、参加者：9名】

特別展「100周年記念 大阪の米騒動と方面委員の誕生」（2018年）の準備過程で調査した資料にもとづいて、方面委員の歴史に関わる新事実をいくつかを紹介した。具体的には、1919年に部落改善を目的に新設された部落事務員が方面委員を兼任しており、その研修場所が石井記念愛染園と大阪府立修徳館であったこと、さらには事務員が1924年頃に検討されていた愛染園の移転問題に協力していたことなどを紹介した。

第55回 定例研究会

「証言・戦後大阪の社会福祉実践史・第16回

佐野信三先生」

お話：大阪婦人ホーム理事長 佐野 信三氏

【2018年7月28日(14:00～16:30)、場所：西成市民館、参加者：8名】

①お仕事の歩みと社会福祉の仕事への経緯、福祉への思い、②朝日新聞厚生文化事業団の特徴と重要な点について、③博愛社で取り組んだこと。力を入れたことなど、④東光学園、大阪婦人ホームでの取り組み、⑤大阪の福祉実践について思い出す人々について、⑥社会福祉の歴史と現在の状況、社会福祉のあり方への考え、の6点の視点からお話をいただいた。とくに、人生史に基づきながら朝日新聞厚生文化事業団の活動を詳細にお話いただき、朝日新聞厚生文化事業団の先駆的な実践が現在のさまざまな事業につながっていること、運動性を有していたことなど、多くの示唆が得られた。また、博愛社、東光学園、大阪婦人ホームの資料も多くお持ち頂き、参加者にとって非常に有意義な機会となった。さらに、先生からのご発題として「社会福祉に宗教心は必要か」についてなど、参加者内でも活発な議論がなされた。

第56回 定例研究会

「大阪における介護の担い手と互助の歴史」

報告者:住之江区社会福祉協議会 樋原 裕二氏

【2018年9月30日(14:00~16:30)、場所:石井記念愛染園 西成市民館、参加者:10名】

介護保険制度改正にみられる「互助」を重視する情勢について、そもそも昔の「互助」では介護を行っていたのか、歴史的視点からの議論も必要と考え、史料を検討した結果、近世以前の伝統的コミュニティでは「互助」に介護は含まれていないことが分かった。介護できる家族がない場合、要介護者は非人組織に引き渡されていた。「互助」で介護をしていなかった背景には、要介護者がその家にいることを家族が隠そうとするという事情があり、「自助」を美化する儒学者による民衆教化の動きも影響していた。近代の養老院の登場は、伝統的コミュニティの「互助」が孕む限界を踏まえて登場した、新しい「互助」による介護のあり方といえよう。

第57回 定例研究会

「証言・戦後大阪の社会福祉実践史 第17回 李清一先生 ～在日韓国基督教会(KCC)の働きを中心に～」

お話:在日韓国基督教会館<KCC>名誉館長 李 清一氏

【2019年2月9日(14:00~16:30)、場所:石井記念愛染園 西成市民館、参加者:12名】

戦前からの在日コリアンの歴史について、法的地位と福祉行政に焦点をあててお話いただいたあと、在日コリアンと外国籍住民の現在の状況、在日韓国基督教協会(KCC)の歴史と働きについてお話いただいた。お話を通じて、差別撤廃、生活圏獲得の市民運動の歴史の一端を垣間見ることができた。また、「在日コリアンの人たちにとっての『ふだんの暮らしをしあわせに』する福祉とは何か、ふだんの暮らし、とはそもそもなにか。」という問いかけは、重く深いものであり、考えさせていただく機会となった。

第58回 定例研究会

「第一部 研究交流集会およびシンポジウムの報告」

報告者:大阪歴史博物館 飯田直樹氏・岡本周佳氏・永岡正己氏

「第二部 総会」

【2019年3月23日(14:00~17:00)、場所:大阪市社会福祉研修情報センター、参加者:12名】

第一部では、地域社会福祉史研究会連絡協議会・研究交流集会参加者からの報告と合同シンポジウム「吉田久一史学の継承と展開」の報告がなされた。第二部では、次年度に向けての研究会のあり方および計画について活発な議論が交わされた。とくに、今後研究を深めるべきテーマや機関誌発行の課題についてなどが議論された。

なお、第一部の飯田直樹氏による報告要旨は、以下のとおりである。

『方面委員一件』(大阪府公文書)など新出資料を分析した研究が登場し、『大阪府方面委員事業年報』ではうかがい知れない一般委員の活動実態や、各方面の内部事情、委員辞退者の多さなどが判明しているという方面委員研究の現状をまず紹介した。その上で、今後の課題として、大阪府方面委員制度創設を大阪社会事業史の中に位置づけることなどをあげ、方面委員制度も米騒動後の社会事業の隣保事業化の一環として把握できるのではないかと主張した。

第59回 定例研究会

「大阪府保健所における PSW の歩み」

報告者:大阪ソーシャルサポートシステム研究所代表 加納 光子氏
【2019年5月18日(14:00~17:00)、場所:大阪歴史博物館、参加者:16名】

著書である『改正精神衛生法時代を戦った保健所のPSWたち—萌芽するコミュニティソーシャルワークを支えた開拓型支援モデル—』（ミネルヴァ書房、2017年）の内容をもとにしながら、改正精神衛生法時代の大阪府における実践を中心に、保健所PSWの形成過程とその推進要因などについてご報告いただいた。大阪府を含めた保健所PSWが地域精神保健医療福祉の流れをつくる役割を果たしたことなどが示された。参加者からは、研究方法論に関するものなど、幅広い議論が行われた。

第60回 定例研究会

「岡村理論における新カント派の受容と現代的意義」

報告者:桃山学院大学 横山 泰三氏
【2019年7月27日(14:00~16:30)、場所:大阪市社会福祉研修情報センター、参加者:12名】

これまで和辻哲郎、西田哲学からの影響関係などが先行研究で指摘されてきた岡村重夫氏の社会福祉理論について、戦前の岡村氏の論考内容を対象に分析を行ったうえでそこに新カント派哲学、とりわけドイツ西南学派のハインリッヒ・リッケルトからの影響を見出した点について発表をいただいた。新カント派は現象の部分に着目して観察可能な事実に反復可能な因果関係を法則として導く自然科学的方法と、現象への総合的な分析と価値関係を明らかにすることで現象の意味を明らかにする文化科学的方法を二分し、岡村氏が明確に後者の立場を採用して戦後の社会福祉の定義を試みたことが示された。

第61回 定例研究会

「大阪における精神障害者処遇の断章 —江戸時代から昭和戦前・戦中期にかけて—」

報告者:大阪体育大学 板原 和子氏
【2019年11月9日(14:00~16:30)、場所:大阪市社会福祉研修情報センター、参加者:12名】

江戸時代の精神障害者処遇について、史資料を示しながらお話をいただいた。江戸時代の大阪における3種類の処遇、明治期以降の法律の概要、明治から昭和戦前の大阪における精神病院の変遷などから、①医療目的というよりも社会防衛の目的が強かったこと、②江戸時代の処遇は今日の歴史にもつながっており、それが個人として精神障害者を捉える考え方を阻み人権意識を成熟させなかったと推察されること、③家族が第一義的責任主体であり、家族が責任を負えない場合に公的資金が使われたこと、などの知見が示された。その後の質疑応答では、江戸時代の檻入（かんにゅう）は尊属に対する丁寧な処遇であったこと等がわかり、江戸時代は比較的ゆるやかな時代であったのだという新たな認識が生まれたといった意見があり、活発な議論が交わされた。

第62回 定例研究会

「公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団
～明治・大正・昭和・平成・令和 109 年～」

報告者:毎日新聞大阪社会事業団 佐和 宏士氏
【2020年2月1日(14:00～16:30)、場所:あべの区民センター、参加者:11名】

毎日新聞大阪社会事業団の歴史について、①創設時から戦前、②創設者・本山彦一死去後の戦前・戦後の事業、③戦後の事業 ヘレンケラー財団との共存時代、④1979年・海外難民救援キャンペーン以降の事業、⑤1995年・阪神大震災以降の事業、⑥公益財団移行後、の6期に分けてご報告いただいた。ヘレンケラー訪日時などの貴重な映像もお示しいただき、時代の要請に応じた多様な事業を展開してきたことが立体的に明らかとなるとともに、現代においても重要な役割を担っていることが改めて理解された。

※報告者の所属はすべて報告当時のものです。

※新型コロナウイルス感染症・感染拡大の影響により、3月研究会は中止。

2019年度 会計報告

2019年度の研究会の会計は下図の通りです。

＜2019年度＞		確定版	
収入		支出	
前年度繰越金	452,847	謝礼	7,668
受取利子	4	雑費	2,964
今年度会費(10名分)	30,000	交通費補助	13,620
寄付	1,000	その他	10,000
		会場使用料	14,420
		通信費	2,320
		次年度繰越金	432,859
合計	483,851	合計	483,851

※その他は、地域社会福祉史研究会連絡協議会の年会費

※交通費補助は、地域社会福祉史研究会連絡協議会出席に伴う交通費補助

※次年度繰越金には特別寄付金(「機関誌発行準備金」)366,341円を含む

事務局からの連絡とお願い

事務局

〒556-0006
大阪市浪速区
日本橋東
2-9-11

石井記念愛染園
愛染橋保育園内

大阪社会福祉史研究会

TEL: 06-6632-5640
FAX: 06-6632-5645
MAIL: osaka.fukusi.rekisi@gmail.com

1. 会費納入について

当研究会は皆様の会費で成り立っています。ご協力お願い致します。

会費は1年間3000円となっております。

会費納入には以下の2つの方法があります。

- ①研究会に参加した際にお支払いいただく
- ②下記の口座へ振り込む

<口座情報>

ゆうちょ銀行

店名) 418 店番) 418

普通預金

口座番号) 0489232

口座名義) 大阪社会福祉史研究会

(オオサカシャカイフクシケンキュウカイ)

なお口座へ会費を振り込んでいただいた際には、事務局（岡本）までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

納付状況が不明の場合も一度下記までお問い合わせください。

連絡先：岡本周佳（E-mail: tikka0827@hotmail.co.jp）

2. 参加者の募集について

本研究会では多くの方にご報告もしくはご参加いただければと考えております。大阪の歴史（分野を問いません）にご興味・ご関心のある方がおられましたら、ぜひお声掛けいただければと思います。

編集後記

2019年度から、事務局に横山泰三会員が加わり、運営員会体制の充実を図っています。何かと至らぬ点が多くご迷惑おかけしますが、今後も大阪の社会福祉史研究を通して学びあいをさせていただきますと幸甚です。（岡本）

皆様、はじめまして、現在、ラオス国立大学のラオス日本センターで研究員-講師をしております、横山泰三と申します。大正時代の日本哲学が専門で、岡村重夫先生の戦前の理論構築の歩みをメインに研究しております。前年度から研究会の事務局の一員として微力ながらお手伝いさせていただくことを通じて、会員の皆様との出会いと交流の充実した機会をいただいております。これからも、何卒よろしくお願いいたします。（岡本）